

6/16 朝日

PKO 危険増す「市民保護」

協力法30年 日本、遠のく派遣

日本が国連の平和維持活動(PKO)に参加する道を開いたPKO協力法が、すでに15年と30年を迎えた。PKOの主任務に「市民の保護」が加わって一部の活動で危険度が増し、日本の関わり方も大きく変わった。

日本への期待を語った。▼
3面=限界も、7面=考論
「PKOは暫定的に国家の行政機能を担う活動かKOの主任務に「市民の保護」が加わって一部の活動で危険度が増し、日本の関わり方も大きく変わった。

マコモ2016年7月、国連の東南の周辺を警備する国連マツダ園的統合安定化ミッションの隊員=AFP時事



本と国連が一緒にになって考える必要がある」と話す。カレ氏はPKOを支える枠組みとして国連、支援国、要員派遣国が協力する「三角パートナーシップ・プログラム」への日本の貢献を評価した。15年に始まつたこの取り組みで、日本は当初から最大の支援国として、外間に教育を派遣し、派遣国の要員に重機操作や野外救護を教えてきた。この活動は近年、拡大しつつある。

しつつある。

力行使を制限され、PKOでの武器使用のあり方も、国際基準よりも厳しい。カレ氏は「日本が貢献を望みつつ、法的な制約を抱えていた。この活動は近年、拡大しつつある。

先月、訪日したカレ氏は政府要人と会談し、この活動の継続を求めた。さらに、自衛隊の装備や設備の提供、貸与を検討するよう要請したところ。

日本は憲法の条により武

材に応じ、PKOの現状とまったく違った。当初の主な任務は

PKOは1948年に始

977~98年の22年間と比

日本は憲法の条により武

材に応じ、PKOの現状と

PKOは1948年に始

977~98年の22年間と比

PKO 自衛隊活動に限界も

6/16 34P

「戦い前提」部隊派遣、南スーダンが最後



・シバ空港の駐機場の敷地造成作業にあたる自衛隊員ら=2012年、東ヌーダン

■国連PKOに派遣された自衛隊員数

カンボジア	1992～1993年	1216人
モサンビーク	1993～1995年	154人
ゴラン高原	1996～2013年	1501人
東ティモール	2002～2004年	2304人
ネパール	2007～2011年	24人
スーダン	2008～2011年	12人
ハイチ	2010～2013年	2196人
東ティモール	2010～2012年	8人
南スーダン	2011年～	3959人

国連平和維持活動（PKO）協力法が成立してから15年で30年。日本は自衛隊員をアフリカなどの国にPKOに送り、1万一千人以上派遣してきた。しかし、部隊派遣は5年前に途絶え、今は閣スータンに司令部要員が4人いるだけ。国連審議の後輩だったPKOば、任務を終えなれどしてゐるのか。▼1面参照

「PKOのあり方が変わつてしまふ。部隊を派遣するのではなく、ノウハウを伝えていく」と支援の中心が移つたのである。

進化防衛相は14日の会見で、自衛隊のPKO派遣といつこと、じぶん答えた。

PKO協力法は1992年、宮沢内閣で成立した。前年に海湾戦争が勃発、米軍を中心とする多国籍軍

この日本の協力が「資金提供だけ」と批判された。本格的な人的支援を進めようとしたのがPKO協力法だった。「紛争当事者の間で停戦合意が成立していく」などの参加も原則のもと、自衛隊を海外に派遣できるようになった。

法律の成立を受け、日本は、自衛隊初のPKOとして、カンボジアに派遣

▼
1
西華殿

平和「維持」から「構築」重視

ロシアがウクライナに侵攻され、約8時間前の出来事だった。一方で、ロシアのアーチンソン統領は「独立保護」した地域、「ドネツク人民共和国」を成立させた。クリーン・田代よりは、これが「邦和維持の概念が曲解されただけ」との感覚だった。

「私は、多くのグループヘルプツー（平和維持要員）が、国連人を守るために命を擲げてきたり、国連PKOの成果を踏りとどける」

り、部隊が武器を使用する
機会が増加。危険度も増
し、自衛隊の活動の限界が
指摘されるようになった。
カンボジア派遣の第一次
施設大隊を務めた渡辺隆
さん(68)は「PKOが戦争
」とを前提としたものに感
質した。日本は、後方支援
以外の部隊を派遣する「
は到底不可能」と語る。
新規開拓地での屯駐も
因とされる。中國をはじめ
め、日本周辺で動きを活発
化させる周辺諸国への対応に
自衛隊が追われている。陸
海自衛隊は「米国の関心も
東南アジアから中国に